

令和3年度（令和2年度対象）
生駒市教育委員会活動点検評価報告書

令和3年8月
生駒市教育委員会

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の 状況に関する点検・評価について

生駒市教育委員会では、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「生駒市教育大綱」が平成28年6月に策定されたことに伴い、本大綱で示された基本方針に基づく具体的な事業を掲げたアクションプランを平成28年8月に策定し、社会情勢の変化や点検・評価の結果を踏まえ、毎年度アクションプランを見直すこととしています。

そして、本アクションプランを基に、生駒市教育大綱の基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けて、各施策及び事業に取り組んでまいりました。

また、大綱については、4年間の推進期間が満了を迎えたことに伴い、社会情勢の変化やアクションプランでの取組実績・成果等を踏まえ、令和2年6月から開始する第2次生駒市教育大綱が策定され、現在は新たな大綱に基づく具体的事業を掲げたアクションプランがスタートし、今回は第2次生駒市教育大綱に基づく施策及び事業に関して、初めての点検・評価の実施となります。

この度、本大綱に基づくアクションプランに掲げられた施策及び事業を中心に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき令和2年度の実績を対象に生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行いましたので、同法第26条の規定により報告します。

令和3年8月23日

生駒市教育委員会

教育長 原 井 葉 子

目 次

令和3年度（令和2年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって.....	1
1 報告書の位置付け.....	1
2 国等の動向.....	1
3 点検評価の概要.....	2
4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見.....	3
教育委員会の活動状況.....	4
教育大綱に基づく施策・事業.....	6
基本方針1 子育てを楽しめる地域づくり.....	6
1 保護者支援の場・コミュニティづくり.....	6
2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実.....	11
基本方針2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり.....	14
1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進.....	14
2 ICT機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備.....	16
3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成.....	18
4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心の育成.....	21
5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備.....	24
基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり... ..	26
1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出.....	26
2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり... ..	30
3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現.....	33
4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展.....	36
点検及び評価に関する意見.....	41

令和3年度（令和2年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって

1 報告書の位置付け

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

2 国等の動向

国では、改正法が平成27年4月に施行され、教育委員会制度が大きく変わりました。

また、学習指導要領が平成28年度末に改訂され、幼稚園は平成30年度、小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から新たな学習指導要領に基づく教育課程や指導が実施され、「主体的・対話的で深い学び」や小学校高学年での「外国語科」の導入など、教育を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。

併せて新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、GIGAスクール構想が前倒しされ、情報端末が児童生徒1人1台に配備されました。また、中央教育審議会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱とした「令和の日本型学校教育」の実現がまとめられています。

生駒市では、平成28年6月に「生駒市教育大綱」を策定し、基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けた具体的な取組を「アクションプラン」として掲げ、毎年度PDCAサイクルに基づく効果的な進行管理を行うことにより、より実効的な施策・事業を推進しています。なお、本大綱は推進期間が4年間とされていたことから、社会情勢の変化やアクションプランにおける実績や成果等を踏まえて、令和2年6月に第2次生駒市教育大綱を策定し、本大綱に基づく具体的な取組を進めています。

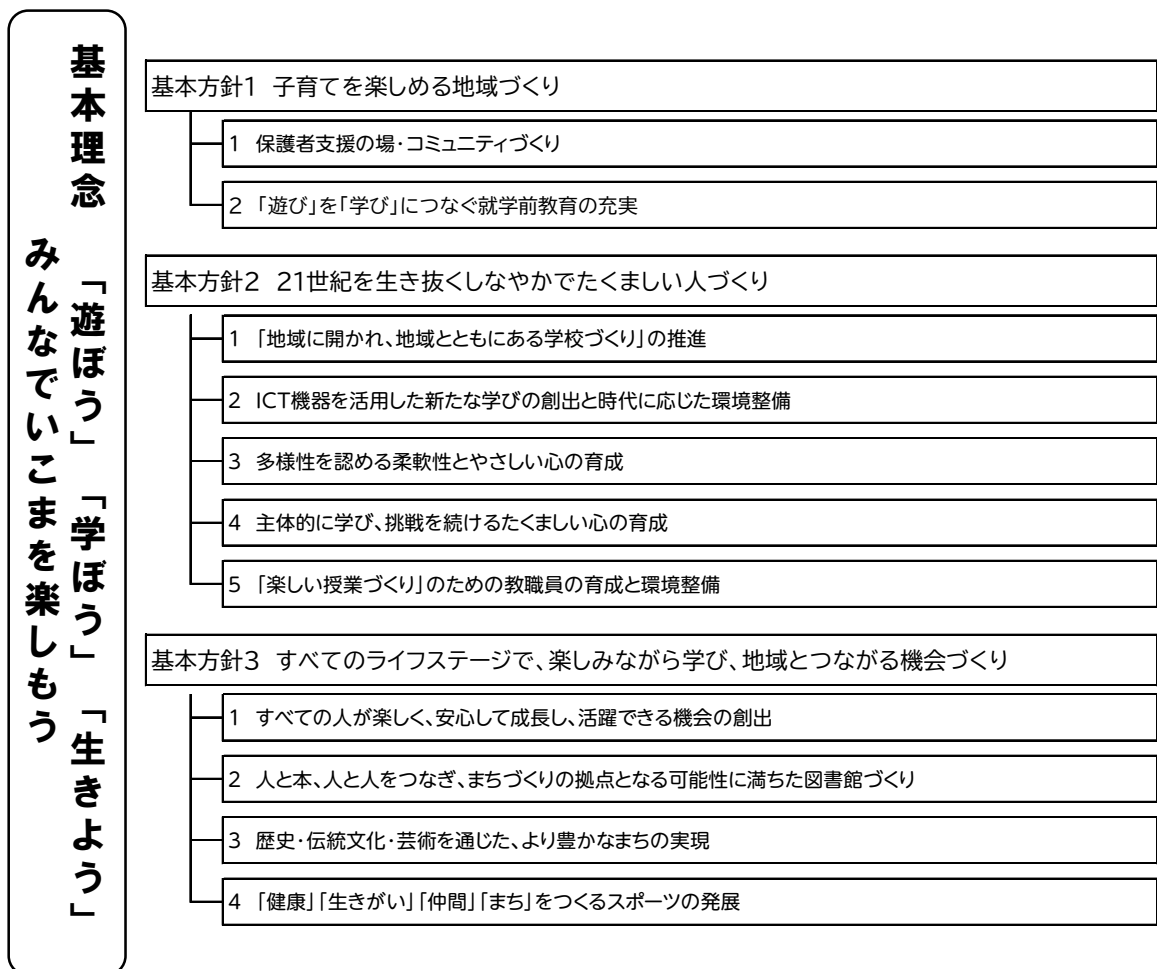
3 点検評価の概要

(1) 点検評価の対象

令和2年度は、教育委員会が行っている活動を大きく下記の2つに分類し、それらを構成する各施策・事業について、点検評価を行います。

①教育委員会の活動状況

②第2次生駒市教育大綱に基づく施策・事業



[第2次生駒市教育大綱体系図]

(2) 点検評価の方法

各事業の取組の実績を踏まえ、達成状況を4段階の評価基準をもって評価します。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価にあたっては、アクションプラン掲載事業については目標に対する達成度を評価するとともに、当該事業等の実施によってどのような効果が得られたのかを明確にして評価することを原則としていますが、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅な事業の中止や変更を行っていることから、取組内容を重視した評価を行うこととしています。

未達成の事業や取組が十分でない事業がある場合は、その要因と理由を明確にし、次年度以降の活動や事業等の実施に活かしていくこととします。

4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見

点検及び評価にあたっては、法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、生駒市教育委員会活動点検評価委員2名を委嘱し、教育委員会による自己評価に対し、同委員から意見が提出されています。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育委員会の活動状況

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
教育委員会会議の開催	定例会及び臨時会を開催し、議案及び報告案件を審議する。 教育委員会が所管する予算、規則の制定改廃、人事案件等について議決、承認を行う。	【会議開催回数】 定例会：12回 臨時会：7回 【審議件数】 議案：44件 報告案件：28件	A 新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況に依りて、ICTを活用し、毎月の定例会に加え、必要に応じて臨時会を開催するとともに、規則の制定改廃や学校での事案等の各案件について、十分な審議の上、遅滞なく議決、承認を行った。
学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	定期学校訪問を実施。 30校園を対象に訪問し、授業の参観及び学校運営全般にわたる視察を行った。 幼・小・中の卒業（園）式及び運動会に参列する。	新型コロナウイルス感染症に伴い一部の活動が制限されたものの、学校訪問については、時期の調整を行った上で実施し、学校経営、教育課程の運用、学習指導など学校教育全般にわたり、学校の実態に即して指導助言するとともに、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援した。	A 新型コロナウイルス感染症に伴い、各校が臨時休業していた影響も鑑み、子どもたちの学びの保障の観点から、指導助言を行うとともに、改めて目指すべき本市の教育の方向性を確認し、推進する機会を得ることができた。
その他市教育委員会主催事業等への参加	成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等へ参加する。	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部行事等が中止等になったものの、開催された教育委員会主催事業に参加した。 (成人式等)	A 新型コロナウイルス感染症の影響で、多くのイベント等が中止等となったが、一部の行事等には参加し、市教育行政の課題等を把握し、現状を確認することができた。
教育委員としての資質・能力の向上	全国及び県で開催される研修会等へ参加し、教育委員としての資質・能力の向上を図る。	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会等が中止となった。 (奈良県市町村教育委員会研修会、奈良県市町村教育委員会連合会研修大会、市町村教育委員研究協議会等)	A 新型コロナウイルス感染症の影響により研修会が中止となったものの、教育委員各個人において研鑽を積み、能力向上に努めた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
各種教育機関との連携	教育委員会が設置する附属機関や教育関係機関・団体等の活用・連携により、多種多様な教育課題に的確に対応する。	附属機関の活用や教育関係団体との連携を図った。	A 例年同様、多種多様な教育課題に附属機関の活用などの的確な対応を行うとともに、教育関係機関との積極的な連携に努めることができた。
総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	ICT教育や小中一貫教育をはじめとする教育環境の充実について、市長と協議を行う。	第2次生駒市教育大綱の策定に向けた協議や生駒市立幼稚園、小・中学校のあり方に関する基本的な考え方について協議を行った。	A 第2次生駒市教育大綱の策定に向け、現在の社会情勢等を踏まえた本市の教育の方向性を共有するとともに、将来的な児童生徒数を見据えた幼稚園、小・中学校のあり方について、考えを共有することができた。
教育大綱アクションプランの策定	大綱の基本理念及び基本方針を実現するため、具体的な施策・事業を掲げたアクションプランを策定し、PDCAサイクルに基づく実効性のある取組を推進する。	令和2年6月に策定された第2次生駒市教育大綱に基づき、令和2年度アクションプランを策定した。	A 新たに策定された教育大綱に基づくアクションプランにより、PDCAサイクルに基づく施策・事業の推進を行うことができ、事業の重点化、実効性担保などを図る一助となっている。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

第2次生駒市教育大綱に基づく、新たな事業や施策を展開していくとともに、常に事業等の検証を行い、次年度以降の取組に活かしていく。
また、生駒市立幼稚園、小・中学校のあり方に関する基本的な考え方については、地域協議会からの意見書や総合教育会議での市長との協議も踏まえつつ、教育委員会としての市の教育のさらなる発展に向けた方向性を見出していく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育大綱に基づく施策・事業

基本方針 1 子育てを楽しめる地域づくり

1 保護者支援の場・コミュニティづくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
子育て家庭 総合支援拠点の充実	子育て家庭と妊産婦等を支援するため、関係機関と連携し支援することにより、虐待の未然防止・早期発見に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点に必要な専門職の配置(虐待対応専門員/子ども家庭支援員) ・個別ケース検討会 議:335回/実務者 会議:24回/代表者 会議:1回 ・拠点に必要な専門職の配置及び相談体制の充実 ・生駒市要保護児童対策地域協議会の運営 	A 拠点に必要な人員を確保するとともに、拠点担当者として必要な研修を受講させ知識の修得、相談体制の充実に努めた。また、関係機関と連携を図りながら相談対応及び総合調整を行い、妊娠期からの切れ目のない支援を行った。
地域で支え 合う子育て の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート事業の周知を図り、子育てを地域で支え合うためのコミュニティを構築する。 ・子育てシェアを広げるための地域交流会の開催、及び地元ママサポーターや会員による子育てシェアの拡大をサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【ファミリーサポート】 依頼会員:607名 援助会員:127名 両方会員:40名 合計774名 活動件数1,446件 【子育てシェア】 シェアコンシェルジュ(ママサポーター):3人 登録者数:344人 ・交流会:3回 ・ファミリー・サポート事業の周知 ・子育てシェアの交流会の開催、及び事業周知のサポート 	B 【ファミリーサポート】コロナ禍における活動自粛や在宅ワークの増加など、社会構造の変化により活動件数が減少した一方で、転換制度の導入や事業の周知強化により、新規登録会員が増加した。 【子育てシェア】直近の感染状況に合わせオンラインとオンサイトを組み合わせた交流会を実施するサポートを行う他、市内公私立幼稚園・保育園にチラシを配布した結果、登録者が増加した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		R2年度の取組/設定目標		
男性の育児を促す取組の推進	父親が育児を自らのことと捉えられるよう、父親の子育てを後押しする事業を実施する。	<p>【開催回数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パパセミナー 2期各4回 計7回 (台風のため1回中止)参加組数:13組 (対象:第1子と父母) ・夫婦で聞く前向き子育てセミナー 参加組数:14組 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パパセミナー/3期 ・夫婦で聞く前向き子育てセミナー/1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・パパセミナー 感染防止のため1期は中止となったが、講座修了後父親母親同士が連絡先を交換するなど、繋がりを求める様子が見られた。 ・夫婦で聞く前向き子育てセミナー 漠然と抱いていた子育てに対して、具体的な手法を学べた、夫婦で話し合いができる貴重な機会となった、などの声があり、各セミナーともに意義のあるものとなった。
待機児童解消に向けた取組の推進	令和6年度までの待機児童解消に向け、小規模保育所の新設、保育人材確保、保育コンシェルジュ相談事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年4月に公立4園の定員を173名増加した。 ・令和2年4月に「小規模認可保育所わらべ学園」を開園した。(定員19名) ・小規模保育事業者の公募を実施した。 ・園見学ツアー、相談会、職場体験を実施した。 ・保育コンシェルジュ相談対応を2名体制に増員した。 ・令和2年4月時点の入所児童数は、2,377人に増加した。(平成31年4月は2,357人) 待機児童数/87人(R2.4時点) 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模園の開園や既存園の定員増で待機児童解消を図った。 ・保育人材確保事業により、公私立園合わせて8名の保育士を雇用することができた。 ・コロナ禍であったが、コンシェルジュ相談件数は昨年度より増加、サポート体制が浸透してきた。 ・各取組を実施したが、待機児童の解消には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模園の開園や既存園の定員増で待機児童解消を図った。 ・保育人材確保事業により、公私立園合わせて8名の保育士を雇用することができた。 ・コロナ禍であったが、コンシェルジュ相談件数は昨年度より増加、サポート体制が浸透してきた。 ・各取組を実施したが、待機児童の解消には至らなかった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・小規模保育所の開設に向けた公募 ・保育士確保事業の実施/待機児童数:122人 		

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		R2年度の取組/設定目標		
地域子育て 支援拠点事業	乳幼児及びその保護者の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。	利用人数：26,104人	・年間を通して、市内10か所で事業実施/利用人数：46,568人	A ・5月末より予約制・定員制・入替制で開所し、7月末より定員制・入替制で実施。外出を控えない中、自宅での「孤育て」に対するストレスが高まっている様子が見られた他、配偶者の在宅ワークへの配慮のために、拠点を利用するなど、コロナ禍における拠点の重要性を感じた。 ・私立保育園での拠点事業は、前年度に比べて利用者数が減少したが、コロナ禍において貴重な保護者交流の場を提供することができた。
学童保育の 充実	増加する学童保育需要に対応するため、生駒市学童保育運営協議会が運営する学童保育所の環境整備、指導員確保などによる体制づくりに取り組むとともに、新たなニーズに応えるため、民間事業者による学童保育事業を促進する。	・新たに設けた地区代表主任と協力し、指導員の資質向上や指導員確保など、より充実した体制づくりに取り組んだ。 ・民間事業者の参入促進を図るため、学童保育開設をテーマとしたセミナーをオンラインで開催した。 民間学童保育所数：6か所	・運営協議会に対する支援 ・民間事業者を対象としたセミナーの実施/民間学童保育所数：6か所	A ・地区代表主任と連携した取組により、指導員の離職を一定数に抑えることができた。 ・セミナーにはリアルタイムで22人、アーカイブで33人の閲覧があり、セミナー後、参加者の一部から開設に向けての課題等の聞き取りを行った。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
家庭・学校・ 地域が連携 した家庭教 育の充実	子育ての不安解消や 地域でのつながりづ くりなどを目的に、 地域で子育て支援等 に関わる市民との協 働により立ち上げた 生駒市家庭教育支援 チーム「たけのこ」 を中心に、学校園な どとの連携のもと親 子や保護者を対象と した交流事業や家庭 教育に関する情報発 信などに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「たけのこ通信」の 発行(3回) ・チラシの作成、配布 (保育所・幼稚園・こ ども園・小学校) ・チームのメンバーを 対象にファシリテー ション研修を実施 ・家庭教育支援チー ム「たけのこ」に よる取組の実施 	<p>A</p> <p>コロナ禍の影響で、 交流事業は実施で きななかったが、「た けのこ通信」の発行 や家庭教育支援チ ームのチラシの作 成、配布など、情報 発信やチームの認 知度向上やチーム 力の強化に向け、 新たな取り組みを 展開することがで きた。</p>

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
自立支援事 業	ひとり親家庭の生活 の安定を図るため、 経済的支援のほか、 自立支援を行う。	<p>高等職業訓練促進給 付費 8人 修了支援給付金 3 人</p> <p style="text-align: center;">-</p>	<p>A</p> <p>児童扶養手当の 現況届等で事業 の周知を図ること により、ひとり親 家庭の経済的支 援を行うことがで きた。</p>

【評価による課題】

- ・小規模保育所の新設、保育コンサルジュによる相談業務などにより、入所児童数の増加に取り組んでいるが、定員受け入れまでの保育士確保は難しく、待機児童解消には至っていない。
- ・民間学童開設には、場所の確保が課題である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・令和2年度は小規模保育事業に選定された事業者がなかったため、令和3年度からの定員増に結びつかなかったが、待機児童解消に向けて、今後も継続して小規模保育所の新設や保育人材の確保に取り組む。
- ・民間学童開設については、事業者が開設場所を確保する方法のほか、市が紹介する場所を利用する方法も合わせて事業者公募を行う。
- ・ひとり親家庭を支援するため、自立支援事業について、様々な方法で周知を図る。

【評価基準】
S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

<参考データ>

生駒市学童保育運営協議会が運営する学童施設の在籍児童数（R2.10.1時点）

小学校名	学童名	児童数	小学校名	学童名	児童数
生駒北小	生駒北学童	27	桜ヶ丘小	桜ヶ丘1学童	65
鹿ノ台小	鹿ノ台1学童	68		桜ヶ丘2学童	62
	鹿ノ台2学童	65		桜ヶ丘3学童	55
真弓小	真弓1学童	68	生駒小	生駒1学童	55
	真弓2学童	69		生駒2学童	55
あすか野小	あすか野1学童	67		生駒3学童	62
	あすか野2学童	66	生駒東小	生駒東1学童	63
	あすか野3学童	64		生駒東2学童	59
	あすか野4学童	71	壱分小	壱分1学童	51
生駒台小	生駒台1学童	87		壱分2学童	48
	生駒台2学童	73		壱分3学童	43
俵口小	俵口1学童	53	生駒南小	生駒南A学童	40
	俵口2学童	53		生駒南B学童	50
			生駒南第二小	生駒南第二学童	34
				計	1,573

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ保幼小接続事業	保育所と幼稚園の学びを連続性・一貫性のある教育として小学校へつなぐ。	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議を2回開催し、コロナ禍でできる範囲の交流を実施し、年度末に1年間の取組を報告集にまとめ、各校園に配布した。 ・2学期からの推進会議実施 ・職員間交流の計画と実施 	<p>A</p> <p>コロナ禍での交流のあり方を工夫し、実施することができた。推進会議2回目には、県の「はぐくみ講座」を利用し、就学前教育について、ともに学ぶ機会を持った。</p>
保護者・地域と連携した特色ある幼稚園運営の取組	「遊び」を「学び」をつなぐ幼児教育を可視化し、保護者・地域の市民力を保育に取り入れ、特色ある幼稚園運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真、動画を利用し、「遊び」を「学び」への視点で保育を分析する研修を実施した。 ・感染対策を十分に講じた上で、保護者や地域ボランティアの活動を実施した。協働回数：各園で4～37回 ・保育を可視化し、分析する職員研修の実施 ・教育目標を発信し、保護者・地域の保育参加を実施/保護者・地域との協働回数：6回 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員研修で写真、動画を積極的に取り入れ、保育分析を行った。 ・「遊び」を「学び」へとつなぐ幼児教育をわかりやすく可視化し、保護者に配布することで、「育てたい10の力」を具体的に示せた。 ・コロナ禍で市民力を取り入れての保育は困難であったが、ビデオレターや活動報告の送付、感染対策を講じてのボランティア活動など、できる範囲で取り組んだ。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		R2年度の取組/設定目標		
公立幼稚園 のあり方に関する検討 事業	令和2年2月に答申を受けた「今後の生駒市立幼稚園のあり方について」を踏まえ、幼稚園のこども園化の実現性や園規模の適正化に向けた検討を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・答申を踏まえ「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」を策定した。 ・保護者や地域の意見を聴取するために、対象地域に地域協議会を設置・開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答申を踏まえた公立幼稚園のあり方に関する検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・再編の対象となった地域において、保護者・地域・幼稚園・行政で構成される地域協議会を設置し、今後の方向性について協議することができた。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
市立幼稚園における預かり保育の実施	子育て支援の一環として、預かり保育・長時間預かり保育を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育利用者数 [市立6幼稚園] のべ7,365人 [認定こども園生駒幼稚園、南こども園1号認定児] ・早朝・延長預かり保育のべ1,021人 ・通常預かり保育のべ2,270人 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、4・5月に幼稚園を休園したため、前年度に比べて利用者数が減少した。
幼稚園就園奨励費補助事業	保護者の経済的負担を軽減するため、私立幼稚園において就園奨励費補助金を交付する。	<ul style="list-style-type: none"> 施設等利用費として、園を通して保護者に交付した(上限25,700円/月)。 交付者数 604人 金額 147,950,690円 	—	<ul style="list-style-type: none"> 園を通して交付することで、保護者の支払いや申請が不要であったため、保護者の負担を軽減することができた。
生駒幼稚園こども園移行事業	子育て環境の充実を図るため、生駒幼稚園を幼稚園型認定こども園に移行する。	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育利用者(1号認定児)のべ1,648人 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、4・5月に幼稚園を休園したため、前年度に比べて利用者数が減少した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
特別支援教育の充実	4、5歳児クラスに特別支援介助講師を配置する。	加配申請児数 63名		A 特別支援加配を必要とする園児3人に対して1人の加配講師を配置し、一人一人に応じた配慮を行うことで、きめ細かい保育ができた。
			—	
幼稚園・保育所教員研修の実施	更なる就学前教育環境の充実を図るため、職員の資質向上につながる研修を実施する。	新規採用職員研修 中堅教員等職員研修 常勤講師・保育士合同研修 幼稚園・保育園交流学習会 年間各4回		A コロナ禍においての難しさはあったが、感染対策をしっかりと行った上で、中止することなく研修を実施し、学びの機会を確保することができた。
			—	
市内私立保育園施設整備助成	定員の増等に伴う市内私立保育所の施設整備に対する補助を行う。	小規模保育事業者に選定された事業者がなかったため補助実績なし		A 計画どおりに小規模保育事業者の公募を行ったが、選定された事業者がなく、補助実績がなかった。
			—	

【評価による課題】

- ・保護者や地域と連携した園運営や保育・研修の実施など、コロナ禍で可能な範囲で対応したが、今後も就学前教育をより充実させるため工夫が必要である。
- ・待機児童解消のためには、小規模保育所の新設のほか、定員増を伴う施設整備に対する補助が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

- ・地域協議会で聞き取った地域住民の意見も踏まえて、こども園化も含めた幼稚園のあり方の検討を進める。
- ・小規模保育所の公募について、事業者に幅広く周知を図るとともに、民間保育所が施設整備を行う際に支援できるように、国及び県からの補助金の確保に努める。

<参考データ>

市立幼稚園園児数（R2.5.1時点）

3歳児	4歳児	5歳児	合計
231	286	300	817

市立保育所園児数（R2.5.1時点）

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
24	61	105	138	141	124	593

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり

1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) の推進	学校と地域住民等が力を合わせて子どもたちの成長を育むため、地域住民等が学校運営に取り組むことが可能となる学校運営協議会を各小・中学校に設置し、地域とともにある、地域に開かれた学校を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会をモデル校に設置、開催/学校運営協議会設置校数：6校、学校運営協議会の開催回数：12回 ・学校運営協議会をモデル校に設置、開催/学校運営協議会設置校数：3校、学校運営協議会の開催回数：6回 	A 学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動を推進した。モデル校4校が一年間の取組を発表した。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
積極的な情報公開と学校評価の実施	学校評価を実施・公表し、改善点を明確にするなど、更なる学校経営の充実を図るとともに、ホームページでの情報掲載など、積極的な情報公開による開かれた学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・3校で1日学校訪問を実施。 ・学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施。 	A 学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施し、ホームページや学校だよりでの情報公開を実施できた。
学校創造推進事業	保護者や地域住民との連携のもとで様々な取組を実施し、信頼され、開かれた学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流の機会を増やすなど、各校で特色のある教育活動を実施 実施回数：2,074回	A 特色のある教育活動を推進することにより、凛ライされ、開かれた学校づくりを進めることができた。
安全教育の推進	学校安全教育の実施や迅速な不審者情報の提供など安全教育委を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども安全メール28回配信し、情報の周知を実施。 	A 保護者や地域の方に携帯電話などを活用していち早く不審者情報を伝えることで、子どもを見守るための意識の向上や犯罪抑止に努めた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
スクールボランティアプログラム・学びのサポーター派遣事業	地域住民がスクールボランティア、市内の大学生が学びのサポーターとして、学校運営に協力し、学校教育の充実を図る。	・スクールボランティアと協力し、学校教育の充実を図った。また、学びのサポーターを年間 597 日間、小学校に配置した。	A 学びのサポーターを各小中学校へ派遣することにより、学校の取り組みを支援し学校教育の充実を図った。
		—	

【評価による課題】

市内 6 校で学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールが始まったが、残りの学校については令和 3 年度からの設置になる。コミュニティ・スクールを始めるにあたり、取り組みを共有していく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

昨年度のモデル校の取り組みを共有するとともに、学校間でも情報を共有しながら、コミュニティ・スクールとして、地域に開かれた学校を推進していく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 ICT 機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
ICT を活用 した教育の 推進	情報端末を全小中学校 に児童生徒1人1 台整備し、授業等で 活用することで授業 の質を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校に校内無線 LAN の環境を整 え、児童生徒に1人 1台のPC 端末を整 備した。/活用報告 事例数:315件 ・校内LAN の整備 ・1人1台のPC 端末 を整備/活用報告事 例数:96件 	A 1人1台のパソコン 端末が整備さ れたことで、協働 学習が進み、思考 の共有化を図れ るなど授業の質を 充実させることが できた。
ICT 活用教 育リーダー 育成研修の 実施	質の高いICTを活用 する教育を実践する リーダーとなる教員 の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 活用教育リー ダー育成研修の実 施/研修の実施回 数:4回 ・ICT 活用教育リー ダー育成研修の実 施/研修の実施回 数:3回 	A リーダー研修を した内容を各校 でも研修を開く ことで、ICT 活用 における教員の 質を高めること ができた。
プログラ ミング教育の 推進	小学校の学習活動の 中でプログラミング 的思考の育成を各教 科等の授業で進めて いくため、「プログラ ミング教育推進計 画」を策定し、プロ グラミング教育を実 施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育 推進計画の策定 ・プログラミング教育 推進計画の策定 ・授業実施 1~4年:2h 5・6年:6h /1校当たりの平均授 業時間数:20時間 	A 各校においてプロ グラミング教育推 進計画を策定し、 プログラミング教 育を行った。
小・中学校の あり方検討 事業	令和2年2月に答申 を受けた「今後の生 駒市立小・中学校の あり方について」を 踏まえ、学校規模の 適正化に向けた検討 を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年10月に「生 駒市立小・中学校の あり方に関する基 本的な考え方」を策 定し、対象校区にお いて地域協議会を設 置・開催した。 ・答申を踏まえた小・ 中学校のあり方に 関する検討 	A 再編の対象とな った校区において、 保護者・地域・学 校・行政で構成さ れる地域協議会 を設置し、今後の 方向性についての 協議を行うことが できた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		R2年度の取組/設定目標		
中学校トイレ改修事業	老朽化が顕著である全中学校の校舎のトイレ改修（洋式化・乾式化）を順次行い、生徒の日常的な学校環境を改善する。	緑ヶ丘・大瀬中学校のトイレ改修に係る設計を完了し、工事発注・契約を行うことができた。	・設計 ・工事/改修実施校 累計数：5校	S 国の補助金採択を受けたことに伴い、予定を前倒しして設計を完了し、工事発注・契約を締結することができ、より早期に学校環境の改善に向け取組を進めることができた。
学校給食センター整備事業	中学校給食センターの老朽化に伴う施設の改修と更新	設計業務を9月11日に着手、3月29日に完成した。	・基本設計・実施設計	A 予定どおり年度内に完成することが出来た。

【評価による課題】

新型コロナウイルス感染症の影響により、国のGIGAスクール構想も前倒しされ、学校のICT環境の整備は完了した。今後は、整備された環境の活用を図るため、研修等による職員の能力育成を行っていく必要がある。
 学校施設の多くは老朽化の課題を抱えており、学校運営にも支障が生じかねないことから、計画的な大規模改修を行っていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

教員のICT活用能力の向上については、今後県とも連携しながら、研修を行っていくとともに、ICT活用に関する事例等を積極的に周知していく。
 施設の老朽化については、財政負担も考慮しつつ、計画的に実施できるよう長期的な視点に立って実施していく。

学校給食の実施状況

	実施回数	給食費(月額)
小学校	155回	4,400円
中学校	150回	4,800円

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
スマートフォン適正利用推進事業	スマートフォンの利用にあたっての注意点や問題点等を周知・指導し、児童・生徒のスマートフォンの適正な利用を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホサミット2020を開催し、生徒会が中心となり各校での取組を発表した。 ・スマートフォンの適正な利用に関するワークショップの開催 ・ワークショップ結果報告の学校での活用 	A 生徒会が中心となり学校独自のルールを作成することができた。小学校では、出前授業などを通して適正な利用について児童、保護者に周知した。
いじめ防止等の施策推進	平成29年3月に策定した「生駒市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止、早期発見につながる取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生駒市いじめ問題対策連絡協議会を2回開催した。 ・生駒市いじめ問題対策連絡協議会の開催/開催回数：2回 	A 平成29年2月に策定した「生駒市いじめ防止基本方針」に則り、いじめ防止に向けた環境整備を推進した。
特別支援教育の充実	特別支援学級在籍児童生徒の学習支援、機能回復のための環境及び体制の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育相談を91件おこなった。 ・特別支援教育相談の実施 	A 通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童生徒及びその保護者・教師に対する教育相談を、専門知識を有する者で相談を受けられる体制を整えた。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
特別支援教育支援員の配置	介助や指導補助、学習補助等を行う特別支援教育支援員を各校に配置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員を平均で各校週6日分配置することができた。 — 	A 各校園に支援員を配置し、きめ細やかな教育支援をすることが可能となった。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールアドバイザーの活用	スクールカウンセラー等を活用し、いじめ問題等の早期解決や教育相談などの体制充実を図る。	・中学校で週に1回、小学校で月に1回市費でカウンセラーを配置(県費は中学校に月2回)	—	A 児童生徒、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行うことを通じて、学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図れた。
教育相談の実施	教育相談員やスクールカウンセラーなどの専門家を活用し、教育相談を行える環境を整備する。	・5名の相談員とカウンセラーなどで教育相談を実施。相談件数:1,263件	—	A 不登校に関する相談が1,065件と全体の約84%あり、不登校初期の段階での適切な対応により長期欠席の防止に効果をあげている。
ことばの教室・通級指導教室エルの運営	読み書きやコミュニケーションなどで困っている幼児や児童を支援するために設置していることばの教室・通級指導教室を運営する。	・ことばの教室・通級指導教室エルへの通級者数は163名であった。	—	A 幼児、児童生徒の障害の重複化や多様化、一人一人の教育的ニーズに応じた教育支援を実施することができた。
適応指導教室の運営	心理的あるいは情緒的な原因等により登校できない児童生徒を対象に設置している適応指導教室を運営し、学校生活への復帰を支援する。	・心理的あるいは情緒的な原因などにより登校できない児童生徒に支援を実施。	—	A 心理的あるいは情緒的な原因などにより登校できない児童生徒への復帰支援を実施することができた。

【評価による課題】

いじめ防止等に向けた学校づくりを進める中で、教員が児童生徒の出す信号に対して素早く適切に対応することが必要となる。また、特別教育支援員を各校に配置しているが、支援を必要とする児童生徒が増加しているため、特別支援教育支援員や学びのサポーターによる支援体制の強化と共に、発達障害の特性を教員で共有し合い、通常の授業の中でも支援の行き届いたユニバーサルデザインの授業について研修していく必要がある。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

いじめ防止等に向けた学校づくりを進めるとともに、6月を「いじめ防止月間」とし、取組を強化する。特別支援教育相談、就学前教育相談による個別相談の充実を図り、発達障害等、特別な支援を要する児童生徒に対し、特別支援教育支援員や学びのサポーターによる学習や活動の支援を実施し、児童生徒、保護者、指導者に対する支援・相談体制を推進する。また、特別支援教育に関して、個別の支援計画作成の研修やユニバーサルデザインの授業に関する研修を実施し、学校での児童生徒への合理的配慮や支援体制の充実に向けた取組を進める。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心の育成

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		R2年度の取組/設定目標		
読書活動・学校図書館の充実	現在、小中学校すべてに学校司書を配置しており、一定の効果が得られているが、さらに読書を通じて豊かな人間性を育むため、学校司書の配置を拡充する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校に週3日学校司書を配置。 ・学校司書を全小中学校に配置 ・ビブリオバトル市内中学生大会の実施/学校司書配置日数：週3日・市内中学生ビブリオバトル開催数：1回 		A 学校司書と司書教諭が連携し、図書館の環境整備や図書に関するイベントの開催により、児童生徒の読書意欲を向上することができた。
あこがれいこまびと講演事業	地域出身の文化人、スポーツ関係者、事業者等、社会で活躍されている方の講演等を通して、児童生徒が郷土愛を持ち、自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って将来社会で活躍できる人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生駒小学校で琴と尺八の鑑賞および体験学習会を実施。/実施回数：2回 ・小中学校で地域出身者の講演会を実施/実施回数：2回 		A 社会で活躍している卒業生や地域の方々を講師に招き、講演会を実施することで、郷土に誇りを持つことができた。
部活動支援事業	中学校において、専門的な技術指導力を備えた指導者が不在の部に対し、地域の適切な人材を外部指導者として派遣し、部顧問と協力して指導・助言を行わせることにより、部活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール、ソフトボール、陸上、バスケットボール、ハンドボール、柔道、テニス、吹奏楽、茶道など、専門的な技術指導力を備えた外部指導者を8校に派遣。部活動指導員実施時間数：1007時間 ・中学校に外部指導者を配置/部活動指導員配置時間数：1440時間 		A 専門的な技術指導力を備えた指導者が不在で、学校長が必要と認められた全ての部活動に対して、外部指導者を派遣できたが、コロナ禍で実施時間数が減った。
生駒こどもチャレンジ補助事業	学校の各種コンテスト等に挑戦するため必要となる経費等を補助する制度を創設し、児童生徒の創造性を培い、達成感を味わうとともに、自己肯定感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・出場を予定していたコンクール2つのうち1つが中止、1つは審査方法が変更になった。実施学校数：1校 ・生駒こどもチャレンジ補助事業の継続実施/実施学校数：2校 		A 審査方法が変更になったコンクールについては、録音データの提出での参加になった。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
チャレンジ！やさしくたくましいこまっ子キャンプ	既存の自然体験学習のメニューとして防災キャンプを加え、児童の防災意識を高め、命を守ることの大切さを再認識し、災害発生時に自分の命を守る行動を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・10校で防災プログラムを実施。 ・各小中学校の判断に基づきこまっ子キャンプの実施/実施学校数:12校 	A 自然と向き合った防災体験活動を取り入れることで、児童生徒の「生きる力」を育むことができた。コロナ禍で日帰りで実施する学校があったため2校ができなかった。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
小学校1年生30人程度学級の実施	本市独自の取組として、学校教育の充実を図るため、小学校1年30人程度学級を実施する。	全小学校において30人程度学級を実施した。	A 国の少人数学級の実現として、段階的に35人学級が実施されることとなったが、1年生については、引き続きすべての学校において達成することができた。
伝え合う力育成事業	豊かな人間性を育むため、読書活動を推進し、各校に学校司書を配置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての小中学校に週3日、学校司書を配置した。キャリア教育プランナーとの連携による出前授業を行った。実施：小学校4校中学校4校 	A 学校司書と司書教諭が連携し、図書館の環境整備や図書に関するイベントの開催により、児童生徒の読書意欲を向上することができた。自己有用感をもって将来社会で活躍できる人材を育成する事業を行うことができた。
奈良先端科学技術大学院大学と連携した授業の実施	中学校を対象に奈良先端科学技術大学院大学の講師等を招き、授業を行うことで学ぶことの興味・関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業を8校で実施。 	A 理科離れが進む中、学校で体験できない最先端の科学に触れることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

平成26年3月に生駒市が環境モデル都市に選出されて以来、全小中学校で環境教育を推進しているために、各校での取組が一定の成果を上げ続けている。また、地域の外部指導者の指導により、専門的な知識を学びつつ郷土への愛着を感じるきっかけとなっている。

キャリア教育プランナーとの連携により、3校で自己有用感をもって将来社会で活躍できる人材を育成する事業を行ったが、他の学校でも実施を検討していく。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

部活動への外部指導者の派遣や地域出身者の講演会を実施し、児童生徒が未来への夢を創造できる取組を今後も推進していく。各校でもキャリア教育プランナーの活用が広がるように推進をしていく。

<参考データ>

市立小・中学校 児童生徒数（R2.5.1時点）

小学校名	クラス数	児童数	中学校名	クラス数	児童数
生駒	27	601	生駒	19	543
生駒南	18	419	生駒南	8	174
生駒北	10	147	生駒北	5	87
生駒台	31	782	緑ヶ丘	17	521
生駒東	23	563	鹿ノ台	11	276
真弓	26	676	上	22	662
俵口	20	482	光明	15	399
鹿ノ台	23	604	大瀬	18	523
桜ヶ丘	26	711	合 計	115	3,185
あすか野	36	963			
壺分	30	757			
生駒南第二	11	211			
合 計	281	6,916			

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
教職員がい いきいと子 どもと向き 合う時間創 造プログラ ムの推進	教職員が健康でいき いきとやりがいをも って働ける環境整備 を行い、教職員が授 業や教材研究等に集 中し、ゆとりをもっ て子どもたちと向き 合う時間の拡充を図 る。	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル校の3校に スクールサポートス タッフを配置した。 ・スクールサポートス タッフのモデル配置 (2校) ・校務支援システム の本格運用 ・給食費徴収システ ムの導入 	A スクールサポ ート スタッフを配 置するこ とで、教 職員の 働き方改 革に 貢献し、 勤務時 間の削 減を行 うこと ができた。
グロー バル 時代 に対 応し た外 国語 教育 の推 進	ALTを小学校1・2 年生にも配置し、小 学校すべての学年で 英語活動に取り組む ことにより、英語の 基礎的な力を身につ けるとともに、コミ ュニケーション能力 の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間小学校1・2年 生で10時間程度、 小学校3・4年生で 35時間外国語活動 を行い、小学校5・6 年生で70時間外国 語(英語)を実施。 ・年間小学校1・2年 生で10時間程度、 小学校3・4年生で 35時間英語活動、 小学校5・6年生で 70時間英語を実施 (ALT、わくわくイン グリッシュサポーターを 配置) 	A 年間小 学校1・ 2年 生で10 時間程 度、小 学校3 ・4年 生で3 5時間 外国語 活動を 行い、 小 学 校5・ 6年 生で7 0時間 外国 語(英 語)を 実 施し、 英語 の基 礎 的な 力を 身に 付け るこ と が で き た。
問 題 発 見 能 力 や 他 者 と 協 働 す る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力 の 育 成	21世紀を生き抜く 力として、授業にお いて、日常の疑問を 発見する力やコミュ ニケーション能力の 育成を図るととも に、必要となる教職 員の能力育成のため の研修を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス 感染症に伴う対応 で、夏期休業中の研 修の実施方法を変 更して行った。実 施:3件 ・働き方改革で夏期 研修を厳選した。生 駒市主催研修:3件 	A 新型コ ロナウ イル ス感 染症 対策 で、 時期 を変 更し たり、 実施 方法 をオ ンラ イン に変 更し たり して 開催 した。

【評価による課題】

スクールサポートスタッフの勤務により、教職員の勤務時間が削減されたが、市内すべての学校に配置されていない。全ての学校にスクールサポートスタッフを配置する必要がある。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

市内全ての学校にスクールサポートスタッフを配置し、教職員の働き方改革を進めていく。スクールサポートスタッフの研修を行い、業務内容の共有を図る。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	「IKOMA サマーセミナー」など、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって、市民への学びや体験の場を提供するとともに、市民が活躍する機会とする。また、このような場づくりを市民が主体となって継続的に取り組み、さらに発展していけるよう支援することで、生駒の誇る「市民力」をさらに引き出し、市民のスキルやアイデアを活かしたまちづくりにちなげる。	<p>「IKOMA サマーセミナー2020」</p> <p>実行委員数 12人</p> <p>開催日 令和2年8月9日(オンライン)</p> <p>講座数:15講座</p> <p>閲覧数:1,252回 (R2.8.11時点)</p> <p>・市民主体の実行委員会による開催・運営/IKOMA サマーセミナー実行委員数:11人</p>	<p>実行委員会と連携し、対面型の開催方法から変更してオンライン(YouTube)によるサマーセミナーを初めて開催した。</p> <p>A 事業を通して市民の学びと活躍の機会になるとともに、開催後も閲覧数は伸びており、視聴の拡大につながった。</p> <p>実行委員会の人材確保にも取り組み、さらなる事業の充実と円滑な実施に繋げていく。</p>

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		R2年度の取組/設定目標		
高齢者の学びへの意欲向上と、学びを「行動」につなげる仕組みづくり	「いこま寿大学」の内容を充実させ、高齢者の学習意欲を引き出すとともに、学びの成果をまちづくりにつなげられる人材を発掘、育成する。 また、「寿生駒連絡協議会」(気らくネット)に代表される同大学の卒業生など有志の市民が地域や学校等と連携しながらまちづくりの担い手として活躍する機会を増やしていけるよう支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・寿大学の休校中に「ことぶき通信」を2回発行し、自学自習を支援した。 ・クラブごとの感染防止対策を含めたガイドラインを作成し、対策に基づき9月から学習活動を再開した。 ・寿大学の実務講習会に本の修理ボランティアを、特別学習会に、ボランティア入門講座を新たに実施した。 ・寿大学の現役の学生・卒業生等で構成する「寿生駒連絡協議会(愛称:気らくネット)」により、小学校と連携した協働活動に取り組んだ。 ・社会貢献活動への参加意欲を促す講習会の開設やクラブ学習課程の改善 ・高齢者のニーズや時代の流れを反映するカリキュラムや運営体制等の見直し ・気らくネットによる地域での社会貢献活動の支援 	<p>A</p> <p>引き続きカリキュラムの見直しを行い、社会貢献やまちづくりの即戦力となる人材育成に努めるとともに、寿大学卒業後も学んだ経験を活かし、地域等で活躍できるよう、気らくネットやOB会への加入に繋げていく。</p>	
困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」を拠点として、様々な困難を抱える子ども・若者が自立した社会生活を送れるよう、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の有効活用及び関係機関との連携のもと必要な支援を行う。	<p>生駒市子ども・若者支援ネットワークの運営を行い、各団体と連携しながら「ユースネットいこま」で相談支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談人数 80人 ・進路決定者 14人 <p>・ユースネットいこまにおける相談支援</p> <p>・「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の運営/ユースネットいこまの相談者数:120人</p>	<p>A</p> <p>コロナ禍における対応として、オンライン(Zoom)による相談体制を確保した。全体の相談人数は昨年度より減りましたが、相談件数は増加しており、コロナ禍で厳しくなった進路決定に向け、継続的な支援を続けた。昨年度に引き続き、広報の特集記事掲載、自治会スター掲示、市内小中学校全児童生徒へのチラシ配布を行い、「ユースネットいこま」の周知に努めた。</p>	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
多様性を認め合う場の提供	年齢や性別、障がいの有無や国籍、文化など個々人の違いや多様性を認め合う学びや体験の機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユニバーサルキャンプin生駒」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・「ユニバーサルキャンプin生駒」の開催/参加者数:60人 	B キャンプの開催は中止としたが、令和元年度のボランティアスタッフ等にアンケートを行った。結果を今後のプログラム等に反映させるなど、事業の充実につなげる。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
生涯学習施設の設備の充実	生涯学習施設の設備を充実させ、市民サービスの向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ改修(洋式化)工事 ・図書館昇降機改修工事 ・新型コロナウイルス感染対策備品等の購入、設置 	A 施設・設備の改修工事やコロナ禍において感染防止対策備品を購入、設置し、生涯学習施設を安全、快適に利用いただけるよう努めた。
生涯学習施設の管理運営	市民の生涯学習の拠点となる生涯学習施設を適切に管理運営し、生涯学習の活性化につなげる。	生涯学習施設の利用者数:444,133人	A 新型コロナウイルス感染拡大による休館や利用制限等を行ったことに伴い、利用者数は大幅に減少したが、利用料金の減免により、文化活動等の利用促進につなげた。
青少年健全育成活動の実施	青少年の健全育成に向けた事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 青少年健全育成事業参加人数:1,008人 青少年健全育成事業参加人数:3,770人 	B 事業内容の変更や事業規模の縮小等、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応を行いながら事業を実施した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により行事が開催できず、成果を挙げることが難しい事業がある一方で、動画配信やオンラインツールの活用により一定の成果を挙げたものもあり、コロナ禍にあっても目的を達成できる事業手法の確立が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

コロナ禍の影響が引き続き見込まれる中、対面型（集客）の形式にこだわるのではなく、オンラインツール等の活用も進めるなど新たな形態での「学びと活躍の場」の創出や、市民が積極的にオンラインツールを利用できる環境の整備に取り組んでいく。

< 参考データ >

生涯学習施設の利用者数

	令和2年度		令和元年度	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数
たけまるホール	7,035 件	95,203 人	11,852 件	233,609 人
やまびこホール	66 件	584 人	197 件	4,080 人
鹿ノ台ふれあいホール	2,067 件	26,485 人	2,937 件	48,025 人
生駒市図書会館	2,317 件	36,707 人	3,623 件	93,637 人
生駒市コミュニティセンター	5,669 件	80,600 人	8,375 件	185,362 人
南コミュニティセンターせせらぎ	5,193 件	63,802 人	7,962 件	162,179 人
北コミュニティセンターISTA はばたき	7,191 件	88,469 人	11,603 件	227,308 人
芸術会館美楽来	3,498 件	52,283 人	5,013 件	106,497 人
合 計	33,036 件	444,133 人	51,562 件	1,060,697 人

いこま寿大学の在籍者数等

	クラブ数	在籍者数	入学者数	定員	応募者数	卒業者数
H29	14	806	193	281	193	203
H30	14	753	228	281	246	196
R1	14	753	196	275	202	165
R2	16※	635	83	275	154	130

※歴史クラブと健康体操クラブを新設、ハイキングクラブ（自主 10km、自主 8km）を募集停止とした。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
子ども読書活動の充実	子ども読書活動における家庭・地域・学校の新しい連携づくり	3回実施し、延べ151人参加 ・家庭・地域・学校が連携し「トライ！生駒子ども読書会議」を開催/生駒子ども読書会議の開催回数：ワークショップ3回	A 外部講師による研修、家読推進やおためし読書の事例発表等による情報共有や、市内幼稚園への読書調査を行った。
「人を通して人を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	図書館が本を通じて語り合う場になるとともに、年齢や地域の枠を超えた全国大会を開催する。	オンラインを活用し決勝304人トークイベント148人、3月31日までの動画閲覧含む合計のべ509人 ・ビブリオバトル全国大会inいこまを開催/ビブリオバトル全国大会の参加者数：380人	A 客席に人数制限があったため、当初の目標には届かなかったが、オンラインを活用により、市内外への取り組みの普及に繋がり、効果的な読書推進が行なえた。市内外への取組の普及につながった。
市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	市民との連携や「協創」のもと、人と本、人と人をつなぐ事業を行い、新たな文化を創造する「まちづくりのプラットフォーム」となる図書館を目指す。	「未在亭」1回20人 「まちかど図書室」13箇所 PRイベント「今森光彦講演会&茶筌制作実演」124人 ・市民との「協創」事業の開催、まちかど図書室活動の推進/市民との「協創」事業数：3事業	A 「本棚のWA」は協働する市民団体との協議の結果、年度中の開催に至らなかった。「君は茶柱 project」は、PRイベントを行い次年度に引き継いだ。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
図書館の運営と充実	図書サービスや利便性の向上を図り、誰もが利用しやすい図書館運営を行う。	市民1人あたりの貸出冊数：9.2冊 市民1人あたりの貸出冊数：12.0冊	A 三密回避のため利用制限が多く、貸出が伸びなかった。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
子ども読書 活動の充実	子どもの健やかな成長の糧となるよう、ブックスタート事業など子どもの読書活動を推進する。	「おはなし会」3,192人、「絵本の会」849人参加。そのほか、ブックスタート、ブックトーク、児童の行事を各館で開催。	A 感染拡大防止のため、多くの事業が中止となり、出前や見学も少なかったが、可能な限り機会を捉えて実施した。
読書活動ボランティアの育成と協働による事業推進	読書活動ボランティアを育成するとともに、同ボランティアと協働し、読書に触れる環境を整備する。	音訳ボランティア、学校図書館修理ボランティア、お話し語り手ボランティアの養成講座を計20回実施。 宅配サービス372回。	A 市民が活動する場を創出するとともに、市民同士のネットワークを作ること尽力し、コロナ禍においてもボランティア養成を行った。また、前年度に比べて貸出冊数が減少したなかで、宅配サービスは前年度と同等の貸出があった。コロナ禍において市民に必要なサービスが提供できたと考える。

【評価による課題】

多くの事業が中止になってしまい、来館者も減ったため、読書活動や、市民協働が停滞してしまっており、成果が上がらなかった。しかし、インターネットの活用によるビブリオバトルや、電子書籍の導入などアフターコロナにつながるサービスの基礎を作ることが出来た。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

延期、中止になった事業の再開がスムーズに行えるように準備し、さらに充実したサービスを提供できるようにする。具体的には、昨年度新規事業で実施できなかった知的障がい者に対するサービスや、「トライ！生駒子ども読書会議」から派生して生まれた様々な主体が参加する子どもの本の勉強会、学校図書館への修理ボランティア派遣などを新しく開始する。また、電子書籍の充実や、イベントにインターネットを活用するなど、アフターコロナを見据えて事業を展開する。今年度からの新規事業「生駒市史編さん」は、学識経験者のほか市民ボランティア、行政職員の協力も得ながら、市民に親しまれ郷土愛を育む内容になるよう、編さん作業を行う。

【評価基準】
S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

図書館蔵書冊数等

	蔵書冊数	貸出冊数	貸出人数	利用券登録者数
平成 28 年度	642,018	1,226,912	438,878	60,972
平成 29 年度	648,088	1,202,428	427,904	58,835
平成 30 年度	644,138	1,285,801	422,029	55,510
令和元年度	647,236	1,340,657	387,103	52,535
令和 2 年度	647,638	1,092,327	317,867	49,710

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
歴史・伝統文化の学びの場の提供と情報発信	市内に存在する有形・無形文化財の保存・活用、伝統文化に親しむ機会の拡充や継承を進めるほか、生駒ふるさとミュージアム等を拠点とした郷土学習の場の提供や歴史文化の発信を行う。あわせてデジタルミュージアムによる情報発信を行うことで、市民が容易に生駒の歴史や伝統文化に触れることができる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとミュージアムにおける歴史講座や企画展・特別展の開催、小学校への出前授業の実施(年間来館者数 6,300人、出前授業4校) ・デジタルミュージアムの運営と周知(年間アクセス数 25,891件) ・「鷹山家文書調査報告書」発刊記念講演会の開催(来場者数92人) ・市内小学校6年生への「茶道体験教室」の開催 ・ふるさとミュージアムにおける企画展等の開催 ・デジタルミュージアムの運営と周知 ・「鷹山家文書」等古文書活用事業の実施 	A 新型コロナウイルスの影響はあったものの、「鷹山家文書調査報告書発刊記念講演会」の開催やふるさとミュージアムにおける館内事業及び出前事業等を通して、本市の歴史文化の発信や学習の機会を提供することができた。
市民との「協創」による「音楽のまち生駒」の発信	「市民みんなで創る音楽祭」など市民の企画提案によるコンサートの開催を通じて、市民が身近に様々なジャンルの音楽に親しめる機会を提供する。 また、吹奏楽を愛する市民により結成された「生駒市民吹奏楽団」の活動を支援するとともに、市内学校の吹奏楽部・バンド等との連携のもと、合同演奏会などの開催を通じてあらゆる世代の市民に吹奏楽や音楽の楽しさを提供・発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民みんなで創る音楽祭」 提案団体 8団体 事業実施 4団体 来場者数 823人 出前授業 3校 参加者 230人 ・「いこま吹奏楽の日」(3月5・6日) 来場者数 818人 ・市民吹奏楽団演奏会「いこすいフェスタ」(3月21日) 来場者 355人 ・「市民みんなで創る音楽祭」の開催 ・市民吹奏楽団の運営、事業開催/「市民みんなで創る音楽祭」提案団体数：12団体 	A 中止となるイベントが多い中、新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、音楽事業を開催した。定員の半分以下での開催となったが、ほぼ開催定員に近い来場があり、コロナ禍においても「音楽のまち生駒」を発信し、音楽に親しむ機会、活動の成果を発表する機会を提供することができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
生駒ふるさとミュージアム管理運営	市の歴史文化の普及のため、生駒ふるさとミュージアムの指定管理者と連携して、適切に管理運営する。	生駒ふるさとミュージアムの来館者数(年間):6,300人 生駒ふるさとミュージアムの来館者数(年間):8,000人	A 新型コロナウイルス感染拡大による一時休館や事業の中止等のため、目標の来館者数には至らなかったが、夏休み期間中には子どもたちの来館が増加した。歴史文化入門講座や講演会のほか、企画展・特別展等を行うことで、歴史文化の発信拠点として取り組んだ。
文化芸術事業	市民の文化芸術活動を活発化するため、成果発表会の場の提供や指定管理者の自主事業の実施、文化芸術団体との連携などを推進する。	生涯学習施設で行われる文化芸術活動の参加者数:4,217人 生涯学習施設で行われる文化芸術活動の参加者数:37,000人	A コロナ禍の影響による事業や公演等の中止にとともない文化芸術活動への参加者数は通年と比べて激減したが、開催方法を検討し、できる限りの感染防止対策を講じて、市民文化祭や市民みんなで創る音楽祭、吹奏楽等事業や名画会等を開催し、身近に文化芸術に親しむ機会を提供することができた。
文化財保護と歴史文化の普及	市の歴史の普及を図り、郷土愛を醸成するとともに、市の貴重な文化財保護を行う。	歴史文化系講座聴講者数:885人 歴史文化系講座聴講者数:985人	A コロナ禍の影響で開催中止や参加人数の制限等により、目標達成には至らなかったが、感染防止対策を講じ、可能な限りの事業を開催した。今後も指定管理者と連携し、幅広い世代を対象に生駒の歴史を学ぶ機会や情報発信により、郷土愛の醸成につながる事業に取り組む。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

新型コロナウイルス感染拡大の影響によりイベントの開催が困難となる中、できる限りの感染防止対策を講じ、可能な範囲で事業を開催した。コロナ禍の影響もある中で、市民が継続的に文化芸術活動を行い、また、本市の歴史に興味や関心、親しみを持ってもらえるよう、継続的に取り組む必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

イベントでの感染防止対策のノウハウをもとに、引き続き市民が主役となって成果を披露する機会の提供や活動支援など、文化芸術活動のさらなる活性化に取り組むとともに、生駒ふるさとミュージアムを拠点として多くの市民が本市の歴史に興味や関心、親しみをもち続けられるような事業展開や仕組みづくりに取り組んでいく。

<参考データ>

生駒ふるさとミュージアム来館者数

	大人	子ども	合計	多目的室利用件数・人数	
平成 28 年度	7,847 人	3,034 人	10,881 人	351 件	7,705 人
平成 29 年度	7,257 人	2,894 人	10,151 人	319 件	6,297 人
平成 30 年度	6,215 人	3,084 人	9,299 人	352 件	6,525 人
令和元年度	5,828 人	1,706 人	7,534 人	278 件	4,072 人
令和 2 年度	4,683 人	1,617 人	6,300 人	152 件	2,555 人

文化芸術事業の開催状況

	種 別	令和 2 年度		令和元年度	
		延べ回数	参加者数	延べ回数	参加者数
市主催事業	市民文化祭等	8 回	6,597 人	13 回	15,672 人
文化芸術団体補助事業	コンサート等	0 回	0 人	5 回	3,362 人
指定管理者自主事業	コンサート等	2 回	609 人	32 回	4,171 人
	講 座	1 回	94 人	401 回	11,334 人
合 計		11 回	7,300 人	451 回	34,539 人

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
総合型地域スポーツクラブの推進・支援	誰もが身近な地域で気軽にスポーツ活動を行えるよう、市内の総合型地域スポーツクラブの発展を支援するとともに、新たなクラブの設立に向け、関係団体への情報提供や人材育成を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報掲載、チラシ配布等による各クラブの周知啓発活動支援 ・生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議の開催(1回) ・生駒市総合型地域スポーツクラブ活動支援事業補助金の設置 会員数:766人 ・各クラブに対する活動支援 ・新規クラブ設立に向けた情報提供や人材育成/会員数:850人 	A 各クラブが実施する事業等についての情報交換を行うことにより、コロナ禍ではあるが、会員数の大幅な減少を抑えることができた。
みんなのスポーツ推進事業	子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民が、スポーツに親しみ、楽しむ機会の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを始めるきっかけやスポーツに親しんでもらえる1日とするため「いこまスポーツの日」(3/20)を開催 参加者数:509人 ・障がい者スポーツ用品の購入及び活用(ポッチャ用ランプス) ・障がい者対象スポーツ事業、障がい児用運動プログラムモデル事業:中止 ・(仮称)いこまスポーツの日の開催(1回) ・障がい者対象スポーツ事業の開催(4回) ・障がい児用運動プログラムモデルの実施/みんなのスポーツ推進事業の開催:4回/年 	A 「いこまスポーツの日」の開催にあたり、市スポーツ施設指定管理者や市内総合型地域スポーツ等と連携したことで、バルセロナアカデミー奈良校によるサッカー教室、リレーマラソンやeスポーツ大会など、新しい取り組みを実施することができ、多くの市民の参加を促すことができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		R2年度の取組/設定目標	
トップアスリート連携事業	スポーツに憧れや夢を抱けるように、メダリストやトップアスリートを招き、スポーツ教室や講演会を開催し、有名スポーツ選手と触れ合う機会をつくります。	<ul style="list-style-type: none"> ・国内トップ選手によるトレイルランニング教室(2/20)の実施 ・現役インストラクターや、市内総合型地域スポーツクラブによる「自宅でできる運動・体操」動画の公開 ・スポーツ教室や講演会の実施/アスリート連携事業の実施:5回/年 	<p>A</p> <p>オリンピックメダリストによる講演会や水泳教室、ちびっこ相撲体験会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としたが、コロナ禍により運動機会が減少している、市民のスポーツ環境を確保するため「自宅でできる運動・体操」動画を作成し、市ホームページで公開した。</p>

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
健康ウォーキング等の推進	生駒山スカイウォークやチャリロゲいこまなど、誰もが気軽に参加でき、スポーツを始めるきっかけとなるイベントを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生駒山スカイウォーク:中止 ・チャリロゲいこま:115人 	<p>A</p> <p>生駒山スカイウォークについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止としたが、チャリロゲいこまについては、開閉会式の短縮など、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施した。</p>
子ども体力向上事業の実施	子どもの体力向上を目指すため、子どもを対象としたスポーツイベントを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを対象としたイベント・事業の参加者数:1,154人 子どもを対象としたイベント・事業の参加者数:2,300人 	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
スポーツ、レ クリエーシ ョン活動	様々なニーズに合っ たイベント、講座等 を開催し、誰もがス ポーツに触れること ができる環境を整備 する。	市内各種スポーツイ ベントなどの参加者 数：5,379人		A 新型コロナウイルス 感染拡大防止 のため、市民体育 大会やふれあい 市民マラソンな ど、例年多くの市 民が参加する事 業が相次いで中 止となる中、スポ ーツ推進委員や (一財)生駒市体 育協会と連携し、 ファミリースポ ーツの集いやスポ ーツ教室などを開 催し、市民のスポ ーツ環境の確保 に努めた。
		市内各種スポーツイ ベントなどの参加者 数：20,000人以上		
社会体育施 設の管理運 営	市民のスポーツ活動 の拠点となる社会体 育施設を適切に管理 運営し、スポーツ環境 の整備を図る。	市内体育施設の利用 者数：591,008人		A 緊急事態宣言発 令時の休館や新 型コロナウイルス 感染拡大防止対 策としての利用制 限などにより、利 用者が大幅に減 少したが、指定管 理者と連携し、感 染拡大防止対策 を講じて施設利 用者の安心安全 の確保に努めた。 また、休館時 には、速やかな再開 となるよう適正な 施設の維持管理 に努めた。
		市内体育施設の利用 者数：1,000,000人		

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
スポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営	審議会を通じて専門家や市民から市のスポーツ施策に関する意見を聴くとともに、地域住民であるスポーツ推進委員と協働してスポーツの普及を図る。	スポーツ推進審議会 開催回数：3回 スポーツ推進委員会 会議：2回 研修会等：1回（中止6回） 実技指導：2回（中止9回） その他地域での実技指導等	—	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進審議会では、令和2年度までが計画期間である「生駒市スポーツ推進計画のあり方について」を諮問し、審議の上、期間延長の答申を受けた。 A ・スポーツ推進委員では、多くの事業が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる中、新規事業である「いこまスポーツの日」の運営協力など、地域スポーツの推進が図れた。

【評価による課題】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、数多くのスポーツ事業の中止やスポーツ団体の活動休止が相次ぐなど、スポーツ環境への影響が大きい。そのため、コロナ禍によるスポーツ環境への影響の検証など、今後のスポーツ活動のあり方について検討するとともに、この様な状況下であっても、市民のスポーツ環境を確保するため、感染症対策としての「新しい生活様式」を意識した取り組みが求められる。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

市教育大綱アクションプラン掲載事業である「総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業」や「みんなのスポーツ推進事業」については、引き続き取り組みを推進する。また、新型コロナウイルス感染症を踏まえたスポーツ環境の整備が求められているため、感染症対策についての今後の方向性を見極め、各種事業や施設運営を進める必要がある。

<参考データ>

スポーツ、レクリエーション活動の実績

(人)

事業名	R2	R1	事業名	R2	R1
体育大会	中止	5,475	体育館無料開放	826	1,216
体育祭	廃止	2,039	学校体育施設開放	2,314	2,916
ファミリースポーツの集い	256	140	生駒ふれあい市民マラソン	中止	396
小学生長距離走記録会	231	180	生駒山スカイウォーク	中止	1,150
スポーツ教室	3,359	5,966	チャリロゲいこま	115	151

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

社会体育施設の利用実績

(人)

施設名	R2	R1	施設名	R2	R1
生駒北スポーツセンター	88,674	163,583	滝寺公園	61,207	191,866
イモ山公園	35,947	56,207	むかいやま公園	35,387	49,220
北大和	75,793	97,670	小平尾南	37,995	48,493
総合公園	101,125	163,718	井出山	133,364	207,157
山麓テニス	21,516	24,399	合計	591,008	1,002,313

点検及び評価に関する意見

(1) 教育委員会の活動状況に対する意見

令和2年6月より、「第2次生駒市教育大綱」に基づく事業がスタートした。平成28年6月から4年が経過し、前大綱は推進期間が満了となった。社会情勢等の新たな変化を踏まえ、教育課題に対応するため基本理念は維持しつつ基本方針等において改訂された。

毎年「アクションプラン」を策定・更新することで教育理念の具現化を図ってきた。アクションプランの策定にあたって、今大綱も前大綱同様、市長マニフェストと連動し「PDCA」が年度ごとに活かされている。発展的かつ一貫性をもった取組が進められ成果につながっている。長期的展望に立って先進的な改革を目指し積極的に取り組まれている点を評価している。

しかし、教育現場は一つの転換期を迎えており多様な課題が山積みしている。昨年からの猛威をふるう新型コロナウイルス感染症は、子育て・就学前教育の場、学校教育の場、生涯学習の場において大きな影響を与え、混乱を招いている。

先行き不透明な状況下にあって、これからも実績をしっかりと点検、評価し、改訂すべきところを見極め、今の「with コロナ」から、コロナ終息後の「after コロナ」を見据えて市を挙げて、臨機応変に対応していただきたい。

(2) 生駒市教育大綱に基づく施策・事業に対する意見

基本方針1 子育てを楽しめる地域づくり (子育て・就学前教育)

1 保護者支援の場・コミュニティづくり

「地域で支えあう子育ての推進」は B 評価ではあるが、コロナ禍で活動自粛や在宅ワークの増加等様々な社会構造の変化により益々事業の必要性が増すと思われる。これからも更にファミリー・サポート事業の周知を図り、地域で支え合う子育てのコミュニティ構築を期待する。

「待機児童解消に向けた取組の推進」も B 評価である。しかし、令和 6 年までの待機児童解消に向け、小規模保育園の新設、保育人材の確保をはじめ、保育コンシェルジュ相談事業の実施等コロナ禍にあってもサポート体制が浸透に向かっているのは評価に値する。更に保育士不足等により待機児童解消に至っていない点等、課題解消に向けた取組の強化をお願いしたい。

妊婦期から子育て期にわたり切れ目のない子育て支援事業が展開されていて評価する。子育て世代の保護者が孤立せず、虐待の未然防止、早期発見も含めて子どもたちが安心して過ごせるよう、家庭・地域・学校・事業者・行政が連携し、地域全体で見守り育み、健全な成長に向けて今後とも様々な家庭に応じた支援をお願いしたい。

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

コロナ禍にあっても、できる範囲での交流や保幼小の接続連携事業も持てたので A 評価になったと思われる。「遊び」を通して創造的な「学び」につなぐ事業を推進し、地域住民との世代間交流や事業者との連携など、「協働」による楽しく充実した取組を期待する。

今後も保護者の働き方の変化も踏まえ、保護者のニーズへの対応が求められる。国及び県からの補助金の確保に努めていただき、きめ細やかな対応をお願い

いしたい。

基本方針2 21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり（学校教育）

1 「地域に開かれ、地域とともにある学校づくり」の推進

市内6校で学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールが始まった。本市では以前から「地域ぐるみの児童生徒健全育成事業」等、地域の実態に応じ特色ある教育活動が地域と連携してなされてきた。

今や学校や家庭だけでは十分とは言えない教育や子育てを、それぞれの長所を生かし合い、欠点を補う中で、学校・保護者・地域住民の協働を通して「地域とともにある学校の実現」に向け、学校間の情報を共有し、さらに充実したコミュニティ・スクールの取組を期待している。

2 ICT機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備

新型コロナウイルスの影響により、喫緊の要請に応じたものとなり、国のGIGAスクール構想も前倒しされ、それに合わせ生駒市でも1人1台のパソコン端末が整備された。

新型コロナウイルス流行による学校休校に伴いICT機器を活用し、学校だけでなく学校と家庭を結ぶツールとして利用していくこと等、思いもよらない緊急事態の対応も求められたICT活用教育である。

新たな学びの環境整備とともに、教員のICT活用能力向上についての研修と並行し、多様な学びを保障する有効なツールであることを認めた上で、子どもたちの情報伝達の便利さとともにICT活用マナーの育成指導もお願いしたい。

いち早く国の補助金を受けたことに伴い、予定を前倒しして中学校のトイレ改修が進められS評価となった。これからも学校現場の改善を期待している。

3 多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成

いじめ根絶に向け、すべての組織が自らの課題と捉え主体的に取組がなされていると思うが、コロナ禍が続いている中で、子どもたちの様子も察知しづらくなってくると考えられる。教員が児童生徒の出す信号に素早く対応するためにも、各校園に「スクールカウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」「スクールアドバイザー」等が派遣され、「カウンセリング」や「教育相談」の充実が図られている。今後もしじめ防止に向けた学校づくりの推進と更なる充実に向けた取組をお願いしたい。

また、特別教育支援体制として、「教育相談室」「適応指導教室」「言葉の教室・通級指導エル」等も成果を上げていて評価したい。近年、特別な支援を要する子どもたちが増加傾向にある。よりきめ細かな特別な支援に対し、今後も更なる体制の充実をお願いしたい。

4 主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心の育成

「主体的に行動する力」「課題を見つけ、解決する力」「グローバル時代に対応する語学力」「他者と協働するためのコミュニケーション能力」を育成し、これからの社会の中においても、生きぬく力を身につけることができる学びの環境を充実していくことが求められている。

コロナ禍にあって、様々な活動が実施できない状況下である。子どもたちが「得意なこと」や「好きなこと」を通じて、将来の「自立」を実感できる実体験を増やすことで興味ある分野への好奇心が促され、失敗しながらもチャレンジを続ける逆境に負けないたくましい心身が育成される。

自分の夢を持ち、自己有用感を高めることができる心の教育と健やかな体を育成する取組として「あこがれいこまびと講演事業」や、「生駒こどもチャレンジ補助事業」「チャレンジ！やさしくたくましいいこまっこキャンプ」等に

引き続き取り組んでいただきたい。

5 「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備

教職員の働き方改革で、「教職員が生き生きと子どもと向き合う時間創造プログラム」が着実に推進されることにより、21世紀を生き抜く力の育成に向け、「わかる授業」「楽しい授業」から「学びの喜び」を子どもたちに感じさせることが更にできると思われる。

「スクール・サポート・スタッフ」の配置により、教職員の勤務時間の削減ができ、教職員が授業や教材研究に集中し、ゆとりをもって子どもたちと向き合う時間の拡充が今まで以上に図れると思われる。市内すべての学校に配置されることをお願いしたい。

新型コロナウイルス感染防止策をはじめ、子どもたちの心身の変調等、益々、教職員は新たな重要な任務を担ってくる。コロナ禍により、行事の見直しや削減、精選も余儀なくされている。この機会に立ち止まり、子どもたちのために、何を大切にしていくか見直しの機会としていただくとともに、児童・生徒の成長、学習能力向上のために教員は更に自己研修に努めていただきたい。

今後も想定できない状況も考えられる。現場と行政が連携し素早い的確な対応と行政指導をお願いしたい。

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる 機会づくり（生涯学習）

1 すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出

「IKOMA サマーセミナー」は、子どもから大人まで幅広い世代が学びたいことを気軽に学べる「街の学校」であり、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって開催される。新型コロナウイルス感染症対策のため、本

年度は対面型の開催方法からオンライン（YouTube）に変更してサマーセミナーを実施し、多くの閲覧があった。開催後の閲覧数も伸びており、WEBによる視聴の拡大につながった。対面型（集客）の形式にこだわることなく、オンラインツールや動画配信の活用も評価できる。「街の学校」の新たな実施方法を考案・工夫し、成果を上げている。今後更に拡大・充実していくことを期待したい。

高齢社会において、高齢者の豊富な知識と経験が生かされ、多くの高齢者が活躍できる街づくりが望まれる。「いこま寿大学」や「寿生駒連絡協議会（気らくネット）」の様々な取組は成果が期待できる。

不登校や学校を卒業した若者のニートや引きこもり等、困難を抱える子どもや若者を支援する事業として、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」を運営し、「生駒市子ども・若者総合相談窓口（ユースネット生駒）」で相談支援をした。市内の小中学校生全員にチラシを配り「ユースネット生駒」の周知に努め、コロナ禍の対応としてオンライン（Zoom）による相談体制も確保し、進路決定に向け支援体制を強化したことは評価できる。

年齢や性別、障がいの有無や国籍・文化等、個々の違いや多様性を認め合う機会を提供する事業として継続実施してきた「ユニバーサルキャンプ in 生駒」を、新型コロナ感染拡大防止のため中止した。そのため「多様性を認め合う場の提供」はB評価ではあるが、今まで積み上げてきた実績の評価・課題を踏まえた上で、今後の事業に反映し充実につなげることを期待したい。

2 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた

図書館づくり

子どもの読書活動充実に向けた家庭・地域・学校の新しい連携づくりの取組として「トライ！ 生駒子ども読書会議」を開催し、研修、事例発表、読書調査

を行ったことは評価できる。「絵本の会」「おはなし会」「ブックトーク」等、子ども読書活動推進のため充実した取組が実施されていることも評価している。

図書館は人と本の出会いの場であり、本を通して人と人のふれあいを深める場の役割を担っている。「ビブリオバトル全国大会 in 生駒」は、昨年度はコロナ禍の影響で中止となったが、本年度はインターネットの活用や客席制限等コロナ対策の創意工夫をして実施した。また、インターネットの活用により、市内外への読書活動推進の普及につながった。図書館が本を通じて、年齢や地域の枠を超えて語り合う場をつくることは、高く評価したい。

市民との連携や「協創」のもと、新たな文化を創造する「まちづくりのプラットフォーム」となる図書館を目指し、「未在亭」「まちかど図書室」「PRイベント」等の取組を実施し、人と本、人と人をつなぐ図書館づくりをしていることは評価できる。

音訳ボランティア、学校図書修理ボランティア、お話し語り手ボランティア等の読書活動ボランティアを計画的に養成されており、今後ボランティア活動が期待できる。

3 歴史・伝統文化・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

市民が興味・関心や親しみを持って、地域に根付いた歴史や伝統文化・芸術に触れることは、より豊かなまちづくりにとって意義深いと考える。

市民が容易に生駒の歴史や伝統文化に触れて学ぶことができる機会を提供する活動として、生駒ふるさとミュージアムの歴史講座や講演会そして企画展・特別展の開催や、小学校への出前授業の開催がある。これらの活動により、歴史や伝統文化・芸術の広報や学習の機会を提供してきた。さらに、インターネットで公開している生駒市デジタルミュージアムへのアクセス数が増加して

おり、成果を残している。生駒ふるさとミュージアムの様々な活動に今後も期待している。

「音楽のまち生駒」の発信では、「市民みんなで創る音楽祭」・「いこま吹奏楽の日」・「市民吹奏楽団演奏会（いこすいフェスタ）」を開催した。コロナ禍なので定員の半分以下での開催となったが、ほぼ開催定員に近い来場があった。コロナウイルス感染防止対策を講じて、あらゆる世代の市民に、音楽に親しむ機会や、成果を発表する機会を提供できたのは評価に値する。

コロナ禍の影響で文化芸術関係の事業や公演が中止になり参加者数は激減したが、音楽関係の事業等では身近に芸術に親しむ機会をつくることができた。今年度開催中止になった事業についても「after コロナ」にむけて企画や開催方法の工夫・検討をお願いしたい。

4 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

生駒市では、以前からスポーツ推進事業に取り組んでおり、スポーツを通じて、健康づくり、生きがいづくり、仲間づくり、そして豊かなまちづくりを目指してスポーツ活動を推進・支援してきた。

総合型地域スポーツ型地域スポーツクラブは「多種目・多世代」で「いつでも・どこでも・誰でも」が参加できるスポーツ環境の在り方として推進されてきた。様々な位置づけで存在するスポーツクラブを統合型が統括できるような方向性の検討も今後の課題としていただきたい。

みんなのスポーツ推進事業は、年齢や障がいの有無に関係なくすべての市民が、スポーツに親しみ、楽しむ機会の充実を図ることを目的としている。取組の一つとして新たに「いこまスポーツの日」を開催し、新しく組織との連携や取組の実施により、多くの市民の参加があった。今後も期待している。

トップアスリート連携事業は、メダリストやトップアスリートを招き、スポ

ーツ教室や講演会を開催し、子どもたちに憧れや夢を与える機会として評価できる。有名スポーツ選手と触れ合うことが大きな影響を与えると考える。今後もこの魅力的な事業の継続をぜひともお願いしたい。コロナ禍のため中止になった事業もあるが、国内トップ選手による「トレイルランニング教室」を開催した。今後も継続を望む。コロナ禍のため運動の機会が減少している市民の運動不足を解消するため、現役インストラクターらによる「自宅でできる運動・体操」動画を作成し、市のホームページで公開したのは、時期を得ていて評価できる。

コロナ禍でのスポーツ事業を計画・実施していることは高く評価できる。

令和3年8月2日

生駒市教育委員会活動点検評価委員 岡 島 洋 子

生駒市教育委員会活動点検評価委員 山 中 和 幸